

## 書 評

地方出版物目録 1977年版

東村山市立図書館編 出版ニュース社  
1977 261 p B5 定価 2,800円

江戸時代の出版事業は、おもに当時三都とよばれた京、大阪と江戸で行なわれたが、そのほか大藩の城下町(たとえば、名古屋、金沢など)での出版も見おとせない。

江戸時代も化政期ごろになると、江戸の出版量は他の都市よりも多くはなるが、それはおもに娯楽的出版物の面においてであり、学術的著作の出版は、京、大阪も江戸に劣りはしない。本居宣長の著作なども、京、大阪や名古屋、伊勢で出版されている。

東京に近代的中央集権政府が成立すると、出版事業も東京に集中され、地方都市での出版事業はほとんど見るべきものがないありさまとなり、現在にいたっているが、それでも第二次世界大戦後は、地方の出版事業もやや復活の兆を見せている。この復活には、一つには戦後の民主化運動や、地方移住の文化人による文化活動も誘因とはなつたろうが、なによりも教育制度の改革により地方に多くの大学が新設されたことやマス・コミュニケーションの激甚な発達がかつとも優勢に作用したにちがいない。わが国のように単一言語社会・単一民族社会における教育の普及やマス・コミュニケーションの発達は、世界に類のない均一的・等質的な国民文化を産みだしている。地方出版文化を育成するこうした背景の一方に、またこれを阻害する一面の事情もある。それは、地方出版物のほとんど

が、全国的な流通ルートに乗りにくいというさまざまな要因の存在である。

最近の10年間に、国立国会図書館に納入された民間の地方出版物は約11,000点をこえると思われ、その出版社も700社に近いが、これらのほとんどは一般小売書店の店頭では見かけられず、出版されたという案内さえも全国的な新聞・雑誌の広告面に現われない。どんな良書が出版されても、それを知る手がかりがなく、また知っても入手する方法がないにひとしい。これも、地方出版物が流通面において全国的なルートに乗りにくいという経済的な事情によるのである。

いま、ここに紹介する東村山市立図書館編「地方出版物目録 1977年版」は、地方出版物の流通面におけるこのような妨げを、読書人や図書館人のためにある程度は取り除いてくれるものとして、感謝されてよいであろう。

この目録は、一般の小売書店で入手できるもの、販布を目的としない私家版、学会・同人・結社等の機関誌の類などを除く民間の地方出版物を収録する。収録期間は、昭和40年1月から昭和51年12月までであり、「地方」とは東京都23区外を意味するが、23区内所在であっても、その発行元が出版業を本来の業務としないものは採録している。

本文の編成は、北海道から沖縄県までの各都道府県別に、50音順排列の出版社ごとに、その出版物名・著訳編者名・判型・ページ・定価・発行年を記入し、巻末には、発行所名簿・書名索引を付するほか、巻頭には「地方出版物の入手法」と題する案内がある。